

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590100279		
法人名	医療法人宮永内科クリニック		
事業所名	グループホーム自由ヶ丘		
所在地	宮崎市吉村町井出ノ中甲793番地1		
自己評価作成日	平成30年11月10日	評価結果市町村受理日	平成31年1月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=4590100279-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成30年12月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者と職員の笑顔と笑い声！
理念にも掲げている『明るくいいきのびのびと』を目指し、そのためには、まず職員が元気でのびのびできるように常にこころがけている。
また、その人らしく、できるだけご本人のペースで暮らして行くことができるようにを念頭に置きながら、日々のケアを行っている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、市の中心市街地や駅に近く、近隣には大型スーパーや学校、病院等があり、利便性の良好な場所に立地している。重度化や終末期のあり方について、利用開始時に指針を説明し、本人や家族、医師や職員、関係者と話し合い、方針を共有して取り組んでいる。急変時や夜間の対応等について母体医院と連携を図れるよう努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づいてケアの実践ができるように、スタッフ会議等で定期的に理念を唱え、共有をはかっている。	職員会議やミーティングで理念を確認共有し、その理念を踏まえて、利用者が明るく生き生きと、のびのびとした生活が出来るよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	時々ではあるが、要請があれば地区のサロンに参加して、簡単な認知症予防体操やゲームなどを行っている。また、地区の文化祭に作品を出展したりしている。	地域の文化祭に、職員と利用者が協働で作成した作品を出品したり、管理者が近隣の小学校や地域住民に認知症サポーター養成講座を市と協働で開催するなど、地域との交流に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の小学校で認知症サポーター養成講座に参加をしたり、運営推進会議の時に、認知症のミニ講座等を実施し、地区の方々にも声掛けして参加していただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の現状や、活動状況の報告等を行い、また災害訓練や津波時の避難訓練など、アドバイスをいただいたりしている。近年、地震・台風など災害も多くなり、会議でも真剣に取り組んでいる。	会議では、ホームから利用者の状態や運営状況の報告があり、メンバーからは、熱中症対策や津波発生時の避難についての対応等の助言があり、それらの意見を運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要時連絡を取っており、生活保護に関する情報や疑問点なども、担当者と連携を図っている。地区の包括支援センターの方々は運営推進会議にも出席をいただき、相談等も行っている。	市の担当者とは、運営上の課題や生活保護に関する法令の疑問点等について指導や助言を受けている。また、管理者は、市と認知症サポーター養成講座を協働して開催するなど、協力関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月のスタッフ会議で、現在の様子など共有しあう。事例など取り入れ勉強会を行っている。外に行かれる時は、見守りやスタッフも一緒に出掛け、気分を変えられる様になっている。	職員は身体拘束の研修会や勉強会に参加し、身体拘束の弊害を学び理解を深め、身体拘束のないケアに全員で取り組んでいる。日中は玄関の施錠はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	2ヶ月に1度勉強会をしている。外出、外泊時は帰所後に変化がないか身体の様子も観察し、ご家族にも外出先での様子を聞いている。施設での変化なども報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人の付いている利用者もおられるため、研修会に積極的に参加し、学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明をしっかりと行った上で、疑問点などを尋ね再度説明を行うことで、不安の軽減を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回、家族会を開催し、ご家族のみで話し合う時間を設け、意見・要望等出して頂いている。それをスタッフで共有して改善を図っていく努力をしている。また改善した旨を改めてご家族に報告している。	運営推進会議に家族の代表が参加して、意見や要望を表せる機会を設けている。また、家族会を定期的に行い、家族の要望を引き出す工夫をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議や個人面談等を通じて、意見や提案など聞く機会を設けている。出来るだけ、反映できるように努力している。	職員会議や個人面接で、職員の意見や要望を聞く機会を設けている。会議では浴室での滑り防止のためのマットの交換等の提案があり、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況の把握は常に行い、適宜、面談等を行いながら、各自が働き甲斐を持てる様に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実践者研修、リーダー研修等は順次受ける機会を確保し、そのほかの外部研修等最低でも年1回は必ず受ける様に勤めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の研修会や打ち合わせなどを通じ、顔合わせをする機会も増えその中で交流も深まってきている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には面談に伺い、現状を見聞きし、それを基にスタッフと話し合い、情報共有を行い、安心できる環境になるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	少しずつでも打ち解けられるように聞く姿勢に努め、これまでの生活状態や、不安に思っていることを会話を通して聞くことで負担の軽減を図っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	基本情報などを先にいただき、本人・家族とも顔合わせしたうえで、要望等を伺ってサービスの利用が妥当かどうか検討し、サービスを導入している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個人ノートを活用し写真や行事などを振り返り、それを見ながらお喋りをする事で、思い出せたり出来るよう共有し関係を持てる様にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	小さな出来事も面会時には先に家族に話をし、居室でも同じ話が出来、会話も弾むように心がけている。季節行事にも参加して頂き、日々の暮らしも見て頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者との関係が続いていけるように、現状もお伝えし以前からの関係が続くように面会時も、ゆっくりと過ごせる空間づくりを行っている。	知人や友人、家族が出来るだけ多くホームに来訪してもらえよう雰囲気づくりに努めている。また、家族の協力を得て、外食や外泊、馴染みの店に買物に出かけるなど外出支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その日その時の状況を見て、座る位置など工夫している。食事等も話が弾むよう一緒にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院先への面会や、年賀状・暑中見舞いを送ったりなどしている。以前入居されていたご家族に街で会った時は、お互いの近況報告等行い、関係を保っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	散歩などはスタッフと会話も楽しみ、体調や体力等観察しながら行う。時間を気にされる利用者には、時計を持参して頂き、安心感を持って頂いている。	センター方式(認知症の人のためのケアマネジメント)の一部を活用して、日々の生活の中から利用者の思いや意向の把握に努めている。また、家族や関係者からの情報を収集して参考にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	馴染みの物を持参して頂いている。服も自分で手直ししたりして長年着用し、愛着を持たれている物などはスタッフも大切にしようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の質が落ちない様に、出来ることは本人に任せ、出来る様に見守る。入浴時や、食事の時は特に心身の変化など気を付けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のミニカンファレンスやケア会議等を利用し、家族の要望等も取り入れながらケアの方法など変更を行い、心地よい暮らしが出来る様に見直し、修正を行っている。	利用者の思いや家族の意向、職員の気づきや関係者の意見等を取り入れた介護計画を作成している。モニタリングは定期的に行い、介護計画は状況に応じて適切に見直すよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日々の様子を記録し、ケアの実践に生かしている。重要事項については、送り等で繰り返し情報の共有を図っている。ヒヤリハットの活用で、職員の気づきを共有し、時にカンファレンスも行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入所前より利用していた訪問介護を引き続き利用したり、ご家族の協力のもと毎週末に自宅泊を取り入れたりしている方もいる。しかしながら、すべての利用者が多機能サービスの提供を受けているとはいえない。		

宮崎県宮崎市 グループホーム「自由が丘」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎週日曜日に民生委員の方による歌の練習や、毎月1回傾聴ボランティアを迎え入れ、日々の生活に変化と刺激を与えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでのかかりつけ医との関係を大切にしながら、受診時には、文書で状況報告を行い、適切な医療を受けられるよう連携を図っている。	利用者や家族が希望する医療機関で受診できるよう支援している。母体の医院からは定期的な往診があり、急変時や夜間に対応できるよう支援体制の構築に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の変化は、日頃の関わりの中での気づきを大切に、少しの変化でも逐一報告や相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、医療機関に対して本人に関する情報の提供を行い、適宜訪問して入院時の状況を確認しながら、病院関係者と情報交換を行うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時から、病状変化に伴う意向確認書を書いて頂き、段階を追って、ご家族の希望や、職員全員に現状でどこまで支援できるか等話し合いを重ね、主治医との連携も図りながら、チームで支援している。	重度化や終末期のあり方については、利用開始時に指針を説明し同意を得ている。本人や家族、医師や職員、関係者と十分話し合い、方針を共有して取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応等はマニュアル化しており、その都度、振り返りをして実践に生かせるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との連携はまだ十分とは言えないが、火災・地震・水害時の避難マニュアルを作成し、日勤帯・夜勤帯と分けて、年2回の避難訓練を実施している。また、防災物品の常備や緊急時の連絡網を作成し掲示している。	夜間想定を含む防災避難訓練を年2回実施している。避難マニュアルも作成し、食料や飲料水等の備蓄もしている。ただ、火災をはじめ地震、津波等災害発生時の対応について、地域との協力体制が十分とは言えない。	火災だけでなく、地震や津波に対する対応が必要であり、地元消防団や近隣住民等との協力体制の構築を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員各々が、利用者主体となるケアを心掛けているが、職員都合により、利用者に制限を掛けてしまっている現状にある。	利用者の人格を尊重し、利用者一人ひとりに寄り添った言葉かけや名前の呼び方等に配慮している。トイレへの誘導や入浴時には特に配慮するよう取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	施設内での生活は利用者の意思を尊重し、自己決定の支援を行う努力はしているが、外出に関しては各利用者の行動や心理状態に職員が柔軟に対応できず、制限してしまうこともまれにある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間・就寝時間は個々のペースに合わせている。レクリエーションは、強要することなく意思を尊重する様にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔を心掛け、汚れの付いた服は取り替える。整髪・髭剃りは毎朝行っている。その日の服装は、その日の気分自分で選び着ている方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳前のテーブル拭きや、下膳の手伝いを安全を考えながら手伝って頂く。又、食材を切る等出来る利用者には、スタッフが見守りながら手伝って頂く。誕生会のメニューは好みのものを入れる様にしている。	利用者の好みを取り入れ、旬の食材を使ったバランスの良い食事を提供している。職員と利用者は同じテーブルを囲み、食事の準備や後片付けを手伝うなど食事が楽しみなものになるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせて主食の量を決めている。カロリー栄養バランスを考え献立作成をしている。水分摂取は3食と10時・15時に分け十分確保出来ている。不足している時は随時補える様にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と3食後に口腔ケアを行っている。自力困難な利用者又不十分な時はスタッフが介助する。利用者によっては、口臭予防にうがい薬を使用している方もおられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	急に落ち着きがなくなった時は、トイレの声掛けや誘導を試みる。排泄チェック表を付け時間が空いている時は、声掛けをしてタイミングをつかむようにしている。	排せつチェック表を活用し、利用者一人ひとりの排せつパターンを把握し、出来るだけトイレで排せつできるよう自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に合わせて、下剤を服用して頂く。(下剤一覧有) 温熱治療器を使用して、腹部を温め蠕動運動を促したり、水分チェックを行い不足しない様にしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴予定日を立てている。体調を把握し安全に入浴出来るようにしている。浴中は会話などをし、楽しく入浴出来る雰囲気を作っている。	リフト浴の設置で、週3回の入浴支援を行っている。また、入浴を拒む人には、日時を変更したり、タイミングよく声掛けするなど工夫して支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のスタイルに合わせ、ベッドやソファで休んだりしている。天気が良い時は短時間の日光浴や、布団干しをし気持ちよく休める様にする。個々に合わせて処方されている眠剤を使用することもある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフが個々の薬の効能や副作用について理解するように努める。誤薬のないように薬を用意する時や服用して頂く時声出し確認をする。落薬が無いよう飲み込むまでしっかり確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る利用者に食前のテーブル拭きや洗濯物たたみ等をして頂く。天気の良い時などは、散歩等スタッフと気分転換も兼ねて行っている。夕食時や行事でビールを楽しむ方もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い時に散歩に行ったり、ご家族にも協力頂き外食やドライブ等行っている。温泉旅行を楽しまれた方や、冠婚葬祭の出席もされている。	天気の良い日には、近隣を散歩したり、家族の協力を得て買い物や外食、花見やドライブに出かけている。家族と一緒に温泉旅行や結婚式に出席する利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、ご家族よりお預かりしているお金を要望に応じて使用している。不安な方は、お小遣いを自分で管理されている利用者もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたいとの要望があれば、本人に説明し、家族の都合等を考慮したうえで掛けて頂いている。手紙もご本人に手渡してやり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花を生ける様にして、共用の場所は整理整頓と清潔を心掛けている。トイレの置きパットは蓋付きの箱に入れて見た目を良くし、他の人も触らないよう工夫している。	採光や室温、換気等利用者が快適に生活できるよう支援している。玄関には季節の花が飾られ、壁には利用者と職員が共同で作成した作品を展示するなど、利用者が季節感を感じながらゆったりと居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用のテーブル席やソファ席は、いつでも自由に好きな様に使って頂ける様にし、一人ひとりが、一日を好きな様に過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの服、布団、タンス、椅子、テーブル等を持参して頂き、落ち着ける部屋にし、読書をされたり、面会も気兼ねなく出来る様になっている。	家族と相談しながら、利用者の希望や個性を生かした部屋づくりを支援している。馴染みの家具や日用品、家族の写真等を持ち込み、安心して居心地よく生活できるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	杖歩行の利用者も転倒防止のため、出来るだけ見守りを行い日中は靴を履いて頂いている。本人が戸惑わずに出来るよう準備をしておき、見守り重視で本人の勝手のいいようにして頂いている。		